

# チャレンジャーを手がけ続ける LUXZの創り上げる作品 その足元にはWORKの情熱が宿る

日本でチャレンジャーの人気を押し上げた立役者と言えば、誰もがラグジ・島澤氏の名前を挙げるだろう。これまで様々なカスタムモデルを提案して来たが、その足元は常にWORKが支えて来た。新たにスタートするカスタムモデルにも、WORKの輝きが彩りを添える。

★ Photo: 浅井岳男 ★ Text: 空野稜

## 日本発のカスタム故に日本製のリムを組む!

日本のみならず、本場アメリカでも渾身のデモカーを展示して来たラグジ。最近では、大胆なアレンジが施されたRラインやMラインを展示することが多い。確かに憧れを抱くものの、自分の愛車とは少し遠い存在のように感じるユーザーも少なくない。ちなみに最近ラグジを訪れるユーザー層の若返りが発生しており、そういった免許を取得して間もない若いユーザーがカスタムを楽しめるようにと考えられたのが、今回紹介する2台のデモカーだ。

Rラインなど自慢した者には非常にシンプルに見えるかもしれないが、ある意味で狙いもある。どちらかと言うとエントリーユーザー向けの内容で、ノーマルボディはホイールを絞り込むことでチャレンジャーそのもののカッコ良さを引き出す。

対するワイドボディは、オーバーフェンダーの装着に加え、リヤデューラーやトランススポイラーを追加することで、レーシーさをより一層強調することに成功。ノーマルフェンダーのままでは洗濯できるリム幅やインセットが限られるが、ワイド化することでその可能性を格段に広げることが可能となり、自分だけのスタイルが実現できるという事だ。

同レクルマがベースだが、パーツチョイス次第で全くイメージが異なるのもカスタムの醍醐味だ。シンプル・イズ・ベストを狙うのもアリだし、大胆なアレンジが施されたスタイルにも、豊富なラインアップを誇るWORKなら、ベストなアイテムをセットできる。

ジャパニカスタム  
新たななる挑戦!

# DODGE Challenger

# LUXZ

<http://luxz.jp>



# WORK

<https://www.work-wheels.co.jp>

Mラインのオーバーフェンダーを追加した事で、フロントは275/35R20、リヤは315/35R20と非常にワイドなFALKEN AZENISを装着。ノーマルボディにセットされた車高調やマフラーに加え、リヤディフューザーやトランクスポイラーも追加。ノーマルのフロントリップと相まって、レーシーなスタイルを作り上げている。ホイールはWORK EMOTION CR3で、フロントは10Jリヤは12J。ワイド化したことでマイナスオフセットのホイールが装着でき、コンケーブデザインが強調されたサイズが選べるのがポイント。ディスクカラーはマットカーボン、リムは特注のブラックアルマイトとなる。



■装着ホイール  
WORK EMOTION CR3P (フロント20×10J / リヤ20×12J)



3ピースの個性というべきピアスポルトが  
ボリューム感を増したワイドボディと調和する



## 2019 DODGE Challenger R/T PLUS wide LUXZ

<http://luxz.jp>

**WORK**

<https://www.work-wheels.co.jp/>

チャレンジャーが欲しいけど、カスタムまで予算が出せない…と嘆く若人に提案したいのがこの仕様。カスタムポイントを絞ることでシンプルさを残しつつも、ノーマル+100万円で、圧倒的にカッコ良く見える。タイヤはFALKEN AZENISで前後共245/45R20をチョイス。ホイールはWORK EMOTION T7R2Pで、フロント9Jリヤ10Jをセット。マッスルカーらしさを残すためやや厚みを感じさせるサイズを組み合わせしており、リヤは意図的に引っ張り感を演出。また、敢えてステップリムを組み合わせることで、クラシカルな雰囲気も醸し出す。ディスクカラーはマットカーボンで、センターキャップは別ブランドを流用する。



■装着ホイール  
WORK EMOTION T7R2P (フロント20×9J、リヤ20×10J)

タイヤ&ホイールはカスタムの原点にして核心となるアイテム  
単純にインチアップするのではなく  
より美しく魅せるサイズを選ぶ！

**NORMAL**

車高調・マフラー・タイヤ&ホイール  
+100万円でこんなにスタイリッシュに!

## 2018 DODGE Challenger SXT

